



平成29年11月10日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 原子力事業者防災業務計画の修正について

当社は、原子力災害対策特別措置法^{※1}に基づき、平成29年3月28日に届け出た敦賀発電所の原子力事業者防災業務計画^{※2}について、今年度の見直し案を取りまとめ、平成29年8月31日から関係自治体との協議^{※3}を開始しました。
(平成29年8月31日発表済み)

その後、関係自治体との協議を踏まえて原子力事業者防災業務計画を修正し、本日、内閣総理大臣及び原子力規制委員会に届け出ました。

当社は、今後も敦賀発電所の安全確保に努めるとともに、原子力防災対策について、本計画に基づき万全を期してまいります。

(参考)

協議を行った関係自治体

福井県、敦賀市、滋賀県、岐阜県

※1：原子力災害対策特別措置法（原災法）

平成11年9月30日に発生したJCOウラン加工施設での臨界事故を契機として、同年12月、原子力防災対策を強化するために制定された。その後、東日本大震災の教訓を踏まえて国の対策本部の強化等を行うために、平成24年6月に改正された。

※2：原子力事業者防災業務計画

原災法第7条に、原子力事業者は原子力事業者防災業務計画を作成すること、毎年この計画に検討を加え、必要に応じて修正することが定められている。また、同条第2項では、修正しようとするときは、あらかじめ所在都道府県知事、所在市町村長及び関係周辺都道府県知事と協議することが定められている。

原子力事業者防災業務計画には、関係箇所への速やかな通報、災害の拡大防止、環境放射線モニタリングの実施など必要な業務を定めている。

※3：関係自治体との協議

- ・原災法第7条第2項の規定に基づき、原子力事業者は原子力事業者防災業務計画を修正しようとするときは、あらかじめ所在都道府県知事、所在市町村長及び関係周辺都道府県知事と協議をすることが定められている。
- ・協議対象の関係自治体：福井県、敦賀市、滋賀県、岐阜県

添付資料：「敦賀発電所 原子力事業者防災業務計画」の修正要旨

以 上

◆完本はこちら

・敦賀発電所 原子力事業者防災業務計画

「敦賀発電所 原子力事業者防災業務計画」の修正要旨

原子力災害対策特別措置法第7条第1項に基づき、敦賀発電所の原子力事業者防災業務計画を修正しましたので、同条第3項の規定に基づき、その要旨を以下のとおり公表します。

1. 修正年月日：平成29年11月10日

2. 主な修正内容

章	内 容	主 要 な 修 正 事 項
第1章 総則	原子力事業者防災業務計画の目的、定義、基本構想、運用、修正方法等	—
第2章 原子力災害 事前対策	原子力災害に備え事前に行う体制の整備、放射線測定設備及び原子力防災資機材の整備、原子力緊急事態支援組織との連携、原子力防災教育及び訓練の実施等	<p><敦賀発電所1号機の廃止措置計画認可に伴う見直し></p> <p><第3節 別表></p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力防災資機材の見直し及びシビアアクシデント対策等に関する資機材の見直し <p><第5節 別表></p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時対策支援システムへの伝送データ見直し
第3章 緊急事態 応急対策	緊急時活動レベル（EAL）により発生事象を連絡・通報した場合等の、迅速かつ円滑な応急対策を行うための施設の立上げ、連絡・通報、体制の確立、情報の収集と伝達、応急措置の実施、関係機関への要員派遣及び資機材の貸与等	<p><通報規則等の改正に伴う修正></p> <p><第1節、第2節、第3節></p> <ul style="list-style-type: none"> 警戒事象の発生後の経過に係る様式の見直し等 応急措置の概要報告を適切な間隔で定期的に報告する運用を明記 緊急時活動レベル（EAL）事象及び事象説明の見直し
第4章 原子力災害 中長期対策	原子力緊急事態解除宣言があった以降の中長期対策を行うための計画の策定、復旧対策の実施、被災地域復旧のための関係機関への要員派遣及び資機材の貸与等	—
第5章 その他	他の原子力事業者で原子力災害が発生した場合の要員派遣及び資機材提供等	—